

## 第 3 回 裾野市の教育のあり方検討委員会

### 議事録（要点筆記）

日時：令和元年 11 月 29 日（金） 15：00～17：00

場所：裾野市役所 402 会議室

出席者：委員長 村山功 副委員長 湯山芳健

委員 横山碧 委員 池谷淳子 委員 三浦靖幸 委員 小島里絵

委員 小野島洋子 委員 荻田和彦 委員 朝妻正昭 委員 山中なほみ

#### 【教育委員会】

教育長 風間忠純 教育部長 杉山善彦 教育総務課長 勝又明彦

学校教育課長 荒井賢二 生涯学習課長 木原慎也

学校教育課課長代理 渡邊清 教育総務課課長代理 二ノ宮貴之

教育総務課主幹 鈴木直美

傍聴人 6 名

#### 1. 開 会

教育部長

ただいまから「第3回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を開会いたします。

どうぞよろしく願いいたします。

#### 2. 教育長あいさつ

「裾野市の教育のあり方検討委員会」は、今回で第 3 回となります。

この委員会では、裾野市の教育の将来像を探るということについて、多岐にわたる視点の中から学校の統廃合について優先的に話し合いをお願いしてきました。

裾野市教育委員会は、9 月から 10 月にかけてアンケート調査を行いました。本日の検討委員会では多岐にわたる調査項目の中から、学校規模等に関わる回答について報告いたします。

このアンケート調査では、小学校 5 年生・中学校 2 年生の児童生徒 879 人、その保護者 782 人、幼稚園の年長児の保護者 338 人、さらに一般市民 561 人から回答を得ました。

この調査が各地区の意見、市民の意見について把握する資料になれば幸いです。

本日の検討委員会において、委員の皆様には、裾野市の学校の再編成、学校枠の再構成について、立場を超えて意見を出し合うとともに、この話し合いは裾野市のこれからの教育をどう進めていくかということに結びつくものであることを念頭に、審議していただけるとありがたいと思

います。

よろしくお願い申し上げます。

### 3. 委員長あいさつ

皆さんこんにちは。これまで1回・2回と委員の皆様のご経験、ご見識等に基づいた意見を出して議論をしてきたわけですが、只今教育長から説明がありましたとおり、今回アンケート調査の一部が報告されます。今後は皆様のこれまでのご経験、ご見識に加えて、アンケートの結果を見て、どうお考えになるかをここで出していただき議論していきたいと思います。

この委員会が、裾野市の教育のあり方検討委員会となっておりますので、徐々に裾野市の教育のあり方に対して提言するような形で議論を進めていきたいと思います。ご協力をお願いします。

### 4. 協議事項

#### (1) アンケート結果（速報値）の把握及び分析について

説明者：教育総務課課長代理

##### ① アンケート調査について

目的・概要・抽出・配布・回収時期

##### ② 回収状況

##### ③ 抽出項目

##### ④ 調査結果

- ・学校規模・1クラスの児童数・生徒数
- ・学級数
- ・学校規模や児童・生徒数について検討する必要性
- ・将来、学校について検討していく上での重要性

について説明

### 【意見等】

委員長

報告ありがとうございました。先程の話にもありましたように、まだ全てのデータが提出されておられませんので、手元に報告のあった範囲ですが、ご紹介いただきました。

このあとの協議事項(2)にも関わるアンケート結果の報告でしたが、何か疑問等がございましたら、確認をしておきたいと思います。何か確認しておきたいことがありますか。

委員

複式学級の質問が出ていますが、複式学級となる可能性のある学校はあるのでしょうか。

事務局 現在のところは、まだ複式学級になるような学校はありません。しかし、将来的にどの程度まで子どもの人数が減少していくかにもよりますが、その可能性を完全に否定はできないと思います。しかし、繰り返しとなりますが、現在はそこまでのことはないと考えております。

(2) これから目指すべき教育環境について

説明者：教育総務課課長代理

- ・アンケート結果について
- ・裾野市教育振興基本計画について
- ・新学習指導要領の全面施行について
- ・これからの教育について

について説明

【意見等】

委員長 裾野市の基本的な方針は定まっており、それを実現していくという流れとなりますが、特に教育環境的な観点から、裾野市の教育がどうあるべきかについて、皆様から自由に意見を言っていただければと思います。  
皆様の色々な観点が、別に繋がってなくても構いませんので、ご意見をいただければありがたいと思います。

委員 教えていただきたいのですが、よく引っ越してしまった子がいたため、3クラスが2クラスになってしまったといったことを聞くことがあります。そうした場合には、1クラスの人数がすごく増えてしまいますが、裾野市では1クラスの最大の人数が、決まっているのでしょうか。

事務局 国の基準では、小学校1年生は35人学級で2年生以降は40人となりますが、国・県の加配の制度により小学校2年生以降も35人学級として編制しています。

委員 アンケート結果では、一番関心が高かった点が「通学の安全」ですが、この場合ソフト面とハード面の両方の傾向があります。学校教育の現場でカバーできる部分と通学路の安全となりますと、ハード面となる部分もあるかと思います。そのあたりは、どのようなバランスで考えるのでしょうか。

私は、皆さんにも重要視されてきたという「通学の安全」に関して、社会でも騒がれておりますので、そちらに目を向けてもらい、大きな部分で進めていただきたいと思います。

委員長 具体的にどのようなことができそうかということですが、勿論個々の学校では、安全教育として子ども達自身がまずは自分の安全を守るようにということをやっていると思います。しかし、実際に今ある道路を使わざるを得ませんので、それについては、より安全となるように道路管理者に申し入れるといったことになると思います。

それ以外には、スクールバスをどうするのかという話や、学区を設定する際には、あまり交通のことは優先していませんので、安全に通えるという視点で線引きするというのも選択肢としてあるとは思いますが。

委員 学区と行政区について、私は一致していないとすっきりしないのですが、あまり重視していないような回答もありました。今の若い方たちは、行政区と学区へのこだわりがあまりないのでしょうか。

委員長 少なくとも「通学の安全」に比べれば優先順位が低いということだけであると思います。実際には半分位の方達はやはり大事であると答えております。優先順位からしますと「子どもの安全」や「学級数が2つあったらいい」と比べると優先度の順位が少し低いという話であると思います。

事務局 今回のことに関しては、外から転入してくる方や新興住宅地で新しく住戸が建った場合には、より近くの学校に通いたいという要望から指定校変更するようなケースもありますので、あまり行政区と学区についてはこだわらず、子どもの安全面や通学距離等を優先する傾向があるかと思えます。

委員 通学路のことに関して、スクールバスもあればありがたいのですが、歩いて通っていくうちに、体力がつくという点もあります。マラソン大会では、遠くから通ってくる子が速いということもあり、何か悪いことばかりではないということも正直あると思います。体力がつくこと、そういった点で私の家も学校から遠いのですが、歩いて通ってほしいという気持ちもあります。この道は危ないとか、こちらの道路のほうが広いのといった思いはみんなあると思います。しかし、そのことをどこに言ってもいいか分かりません。仮にそういう意見がありますかと聞かれましたら、多分色々な意見が集まると思えます。ただし、そのことをどこに言ってもいいか分からないという保護者からの意見はありますか。

委員長 今までそういう意見は、あまり聞けなかったのですか。各学校で一度、保護者の方や子ども達に調査しても構わないですよ。

事務局 通学路は各学校で校長がそこを定めておりますので、そのようなご意見は学校に寄せただけであればと思いますが、今までそれを聞く機会がなかったかもしれません。

委員長            そういう意味では、市のほうで一度音頭をとっていただいて、各学校で保護者の方や児童生徒に聞いてみてくださいということで、よろしいでしょうか。

事務局            はい。

委員              通学路はPTA が決めています。各地区にも安全部の方がいらっしゃるので、その方たちに意見を言って通学路の変更もできますし、新たにこちらの道を通ったほうが良ければそちらにすることもできますので、それを学校の通学路として定めています。しかし、各地区の色々な細部の道までは、学校で把握しきれない面もありますし、地域の意見が反映されると思いますので、それは地域で話し合えばいいかと思います。それを学校も把握したいので、是非教えていただきたいです。

委員長            それは、どこの学校も PTA ということで同じなのですか。

委員              同じだと思います。

委員              今学校の役員をやらせていただいています。去年は小学校で、今は中学校をやらせていただいているのですが、通学路に関して校外安全部等では、先程の話を一切伺ったことがなく、年間 2 回・3 回、小学校であれば横断報道の場所に立ったり、夏休みには夕方 5 時以降の見回りをしたりと、中学校もそうですが、こういう活動がメインになっています。通学路に関して、PTA が決定しているということは全く知りませんでした。

委員              長年積み上げてきたもので、その年に作ったものではないと思うのですが、その中で今までに修正されてきたと思います。

委員              校外安全部の部長さんたちもそういう話を知らないのか、前の役員さんからもそういう話はありません。

委員              私が PTA 会長のときには、決まっているものだと思っていました。

委員              それはあるかもしれません。決まっていて、逆に変更ができないのかもしれません。

委員              例えば、道路沿いに新しくコンビニができたため、危険度が増したのでルートを変えた方がいいのではという話があったかもしれません。しかし、今言われたように PTA で決めたという記憶はありません。

委員 何十年も前からそれがあると思います。それが積み上がり、決まっているので入学の際には、通学路はここですと言われたと思います。

委員 中学校の場合は、基本的に通ってはいけないというところが決まっているだけです。小学校は、集団で登校するので決まっていると思います。しかし、新しく道が出来たためそこを通学路にしてほしいという要望をPTAから受けたり、或いは卒業生からは、ここは自転車だけであったはずなのに、何で歩いて良くなったのかなど、我々も知らないことを教えてもらい、後から調べて改めて決定したことはあります。中学校の場合には、基本的に危ないところ、一方通行になっているところは自転車だけだとか、そういう決まりだけだと思います。

委員 年に一回、夏休みに通学路点検を、どの学校も行っています。点検は、学校だけではなくて、教育委員会と警察、危機管理課と合同で行っています。

事務局 通学路の実態につきましては、今後、こちらからも働きかけをしたいと思います。

委員 もし、校舎を建替えるのであれば、こんな学校がいいと思うこととして、多目的ルームがあることや学級数に応じた教室だけでなく、ゆとりのある教室がほしいと思います。現在、通常の学級は減りつつありますが、特別支援学級や通級教室などの特別な支援が必要な子ども達のための部屋を増やす必要性が現状であります。

また、上限の35人ぎりぎりの人数の子ども達を指導するために、算数では3クラスを5人の先生で指導するため少人数で授業をしたいというときに、やはり余裕教室があれば活用できます。ゆとりのある数の教室があるといいと思います。また、多目的教室も大変便利な教室です。

委員長 最低限の基準は、決まっていますが、別にそれを超える分についてはいくらやっても構いません。学校の建て替えの際には、学校からの意見も聴いて設計するのですか。

事務局 当然、意見は聴くことになると思います。

委員長 何年か先には行うことになりますので、計画をするときには是非そういった意見も聴いていただけるとありがたいと思います。校舎の中の話は、あまり出ていませんでしたので、その視点は大事かと思います。

委員 課題となっていることが学校現場にはたくさんありますが、それを未来に向けて解決出来るような校舎づくりができればと思います。特に、裾野市だけではなく全国的な問題となっている不登校の課題や登校はしていますが教室に入れないうちの子どものことなど、色々と多様性があるような状況もあります。先程の特別支援の件もそうですが、

一概に国の基準、静岡の基準で35人学級という問題とは別に、市が教育に力を入れていきたいと考えるのであれば、市として人材がより得られるよう予算をさらに増やしていき、一クラスに先生が2人いる担任と副担任を付けるような状況とすることや新しい学校を造る際には、フリースクールのようにそういう子ども達が学べるといったところが、もし裾野市にそういう公立の学校ができるのであれば、それも一つの方法かとは思いますが。

委員長

全国的に不登校対応等の数が増えているため、別室登校の子ども達のいる場所を造っていく必要があります。しかし、部屋が足りないため保健室に行ったり、図書室を使ったりとかいう形で、なかなか難しい状況にある学校もあると思います。そういう学校の校舎等についての考えは、それぞれ色々な学校で抱えていると思いますので、まとめて聞いておき、建設の際に生かす方策として持っているといいかと思えます。ただし、人を付けないとなかなか難しいといいますが、子どもがいるのであれば、放置しておくわけにはいきませんので、そこには誰か大人が付くようになりますと、教員である必要があるかということには分かりませんが、少なくともそこに大人がいるという状況は、できれば対応したほうがいいのかと思えます。

委員

資料にこれからの教育についてというところで、課題が2つあります。

1つは児童生徒数の減少についてです。この課題を解決するにはどうするのか、課題ですので、何とか解決しなければいけません。老朽化の問題とも絡んでくると思いますが、これからの教育についての課題は、この2つだけではなくて、例えば裾野の子ども達の道徳心についてや不登校をなくすことなど、色々な問題があります。このことは、全国的な問題かもしれませんが、裾野市としてはどのようにして解決していこうとするのかということが課題解決策となります。課題は、この2つに限ってということですか。

委員長

ここに基本理念があり、例えば一人一人を大切に教育の推進ということ言えば、今のような支援の必要な子ども達をサポートすることが、クローズアップされてきます。ですから、大きな状況として、この2つの課題を今回、抱えながら議論してきましたが、裾野市のこれからの教育という意味では、そういったこともどんどん言っていて、いいかと思えます。

委員

そうしますと、児童生徒数の減少に伴う保護者等の考えは、先程示されましたので、大体傾向は分かりましたが、その中で今言われたような子どもの課題は色々あります。それを裾野市としてどのようにして解決していくのか、方法が何かあるのかということについて、例えば裾野市では地域のコミュニティーがやはり大事になるのかと思えます。須山であれば須山のコミュニティー、富岡でしたら富岡のコミュニティーがあります。その地域のコミュニティーと学校がどのようにして連携しながら、子ども達をこういう姿に変えていきたいというようなものが、やはりあるべきだと思います。

す。子ども達の数が増加していることを統廃合に結び付けていくよりは、そういったものをある程度努力しながら、これは限界となれば統廃合も選択としてあると思います。

ですから、それによって難しいところもありますが、そのへんのところを、やはり考えていくべきで、どの市町でも統廃合については議論しているところで、裾野市の本当の教育のあり方、そのためには具体的にはどうしていくのかという方向にもっていくことが理想ではないかと思います。

委員長 今回の視点の中に「地域に対しても身近で開かれた学校運営」とありますが、そのこととただ統廃合という話は、少しずれる部分があります。いわゆるコミュニティ・スクールのような考え方もあると思います。

委員 地域と学校の連携の具体的な施策としてはあると思います。

委員長 教育に対する色々な人の願いは必ずしも整合的ではありません。ですから、その地域に学校があり、その地域で学校を支えていきたいということも一つであります。

しかし、一方では学級数は複数あった方がいいということもあり、必ずしも両立しませんが、こうなったらいいということは皆さんあるわけで、そこをきちんと整合しようということは無理かと思えます。

委員 両論で進んでいかなければいけないところがあるかと思えますので、今回あり方検討委員会としてどのように提言していくかです。

委員長 そういう大事なことは、例えば先程の最後の設問で言いますと、市民の皆さんがどういったものを優先しているのかでいきますと、子どもの通学の安全が一番大事だとなりましたら、先ずはそちらから順番にということになると思います。

委員 それは、現状からそのことを言っているのか、或いは今後統廃合をした後のことを言っているのかが、少し見えない部分もあります。

委員長 現状でも、統廃合をする、しないに関わらず、これは優先してくださいという考え方であると思います。

大事だと思う事を色々出していき、その中で最終的には全てをとすることは無理かと思えますので、その際には優先順位を考えるという話になると思います。

教育長 それぞれのお考えがあります。今お話しのように地域の特性の話があったり、学習指導要領等これからの教育のこと、もう一つ裾野市としての教育の計画のお話がありました。それぞれをどう考えていったらいいかにつきまして、皆さんのご意見を伺えた



らと思っております。

委員

課題として、冒頭の教育長からの挨拶でもありましたが、児童生徒の減少、それと施設の老朽化ということは、1 つセットになった問題であると思います。今回貴重なアンケートの結果を受けましたので、ある意味では我々委員の中で、児童生徒の減少と老朽化を兼ねて、そのことに対する提言といいますか、アンケートの結果を受けての色々な意見がこれから多く出てくると思います。しかし、先ずはそのことに関して、今の結果をどう捉えるかということをご皆さんに聞いた方がいいかと思います。私としましては、こういう答えが出ていますと、やはりある程度の学級数は、全体では児童生徒数が減少する中で何らかの対応をしていかなければいけないと思いますし、老朽化に対してもアンケートの答えからは、それほど急がなくてもいいのではないかと回答が多かったわけですが、現実的に色々な状況があれば、急がなくてもいいのではないかとすることに対して、こういう事情のあることを説明しませんが、一般的にアンケートを答える方の中には、そこまでの状況を把握されていない可能性がありますので、別に急がなくてもいいとしてしまうのではないのかと思います。したがって、皆さんに分かるような形で説明して進められたらいいかと思います。

委員長

最後にまとめてくださってくれましたが、例えば複式学級は避けたいということに関しては、恐らく大多数の意見であると思います。個々の学校の話をするときには、色々個々の事情もあると思いますが、一般論で考えたときには、やはり学級は複数あった方がいい、複式になってしまうのであれば、そこまで学校の維持はできないなど色々な考え方があると思います。

ですから、一般的にいうとこういうことを望んでいますということが基本的な方針であると思いますので、そういう方針の中に地域と学校がきちんと連携してという方針があってもいいと思います。そのような中で何を大事にしていきたいかということがあがってくればいいかと思います。しかし、それを全部繋げたときに最終的にきれいに繋がるかどうかについて、あまりこちら側が先回りして考えなくてもいいかと思います。あくまでも、裾野市として、こういう教育をしてほしいということが出てきて、最後にどこまできちんと整理できるかどうかについてはやってみないと分からないところがありますので、最後にきれいに話が出来上がるようにと考えずに思ったことがあればどんどん言っていただければと思います。アンケートの結果についても、私はこのように思いましたということがあれば言ってください。

委員

自分の子どもは、小学校4年生です。10月に市内音楽祭がありましたが、どの学校にも順位、優劣をつけませんでした。私もその通りだと思います。大きい学校、人数の多い学校はダイナミックな演奏が4年生だけでもできますし、少人数の学校は、5年生・6年生も参加して、リコーダーだけではなくて珍しい楽器を使って演奏していました。やはり、学校の規模に応じて、それぞれの学校の良さがある、そのときは

いいなと感じました。

また、アンケートを見ますと、保護者や児童生徒も今の自分たちの現状に肯定的であると感じました。ただ、私自身、学校というのは教室で授業を受けている時間が一番長いのですが、振り返ってみますと、合唱コンクールや運動会など、みんなでまとまったとか、泣いたとか、そういった思い出のほうが、自分としては強い印象があります。学校の勉強だけではなく、そういう切磋琢磨みたいなものがすごく大事な部分であると思います。そう意味から考えますと、単学級ですとそういう行事では、クラスを分けて競うとか、他の学年と競うとかとなってしまうので、できれば、1学年に複数学級があった方がいいかと思います。

そういうことを考えますと、統廃合はやむを得ない部分もあるかと思います。ただし、通学路の安全は、子どもの命に関わりますので、その点は手厚くしていただけるとありがたいと思います。

委員長

おっしゃることはよく分かります。こういう形で子ども達が成長してくれるといいなと、そのためには2学級はあったらいいなということと、そのときに統廃合を無理につなげる必要はなく、とりあえず2学級以上あって、切磋琢磨ができればいいなということを単純に言っていただいて構いません。こうするとこうなってしまうようになりますと、何も言えなくなってしまうので、裾野の教育がもっとこうようになってくれたらいいなということをお願いいただき、その中から人的にや予算等の点から、どこかに落としていくしか最終的にはないと思います。裾野の教育がもっとこうなってほしい、例えばICTや情報教育の話もありましたが、それでしたらこうしてほしい、ということをごんごんあげていき、最終的にどこまでまとまったものにするのかということは出てきてから考えればいいと思います。裾野の教育がこうあったらいいということをお願いしたいと思います。

委員

ちょうど中学3年生が総合的な学習の中で、裾野市への提言ということで、これは児童生徒数の減少ということだけではなく、裾野市自体の人口が減っていってしまうのではないかとこのころで、子ども達なりに色々なことを考えています。そう考えたときに、やはりそれぞれの学校に魅力があり、その魅力を発信していないといけないと思い、そうするとそこに子ども達は外から人が来るのではないかとこのように思っているところが多くあります。何が言いたいかといいますと、規模が小さくなってしまい、もしかしたら統廃合しなければならない学校は、例えばAIを使ったものを導入するとか、何か特色のあるところに人が集まるという教育ができるのであれば、それは一つの目玉にはなるかと思います。現実的に可能かどうかと言われますと、そんなことを考えたら無理かもしれないということはいくらありますが、特認校のように、教育課程が全然他の学校と違う形で組めるような仕組みができますと、それが魅力的な学校となっていくますし、そういうところがあったらいいのかと思います。

委員長 裏付けみたいなのを考えていると何も言えなくなってしまうので、例えば教育課程でしたら、実験開発学校になれば好きなように組めるということはありません。そういう後付けみたいなことは事務局に考えてもらえばいいと思いますので、個々の学校がもっと特色を出せるようなことを言ってもらえればいいと思います。

委員 下の娘が今度小学校に上がるのですが、このタイミングで家を建てる方が結構いるようです。そのときに考えるのが、どこの小学校に通うのかというところで、結構近隣の市町に行ってしまう方も多いです。沼津市の静浦小学校が小中一貫校ですが、アンケート結果から、小中一貫については大事ではないと思っているわけではなくて、よく分からないのでないかと思いました。自分もアンケートに答えた一人ですが、やはり同じ年長の子を持つ親は、まだ体験していないため回答することが難しかったと言っていました。

ですから、小中一貫校がすごくいいらしいということを知りませんし、学区と行政区が一致して何をしてくださっているのかということも知りません。そこに魅力を感じていないわけではなく、本当に知らないだけではないかなと思います。そのため、身近な子どもを守るための安全ということが大事となってきますし、先程委員長がおっしゃっていたように、地域の魅力というものが、どこに当たってくるかということを知っているのか、知らないのかということは大きいと思います。資料は決して大事ではないということではなく、知らないだけ、知識がないだけではないかと思います。

委員 私もアンケートの結果については、分析の仕方によって全く異なると思います。一番肝心なことは、保護者の方々は学校教育に満足をされていて変化を望んでいません。今の自分の子ども達のことを考えて変化を望んでいないのではないかと捉えられると思しました。

また、先程言われたように小中一貫教育には、どういうメリットがあり、どういうデメリットがあるのかということは周知されていることではありませんので、それがどうかと言われても答えようがないところがありますし、同じことが2学級がいいか、1学級がいいかと言われても1学級しか経験してなければ2学級の良さがなかなかはっきり掴めませんし、2学級を経験している人が1学級の良さをなかなか分からないと思います。したがって、今のところが一番いいという結論は当然ではないかと思います。

委員長 他で実施した子どもへの調査でも、自分の学校のクラスがどのくらいだったらいいかや学級の人数がどのくらいだったらいいかの問いに対して、基本的に子ども達は現状維持を示しますので、自分が今楽しいからこれでいいのではないかという回答が多くなります。子ども達、そして保護者も特に不満がないということは、それぞれの学校が非常にがんばっていてありがたい話ではありますが、あくまでも保護者や市民の皆さんに、どのように思っているかということを知りたいと思いますが、みんながこれを望んでいるから、このとおりにしましょうということだけでは、我々のいる意味もありません。

せんで、あくまでもこういうものを基礎資料として、この委員会では裾野の教育に何を望みますかといった話になります。

委員

裾野市では、各地域の方の協力もありますし、PTA 活動も一所懸命やったださっています。そういうことを大切にしていけることが大事で、これからコミュニティ・スクールに向けて色々と準備をしていこうと思いますが、その中で、例えば老人会の方たちが学校に来ていただいても休んでもらう場所がありません。仮に新しい学校にあればいいと思うことでは、クラブハウスのような部屋があり、そこでお茶が飲めたり、PTA 活動もそこでできるとか、何かそのようなコミュニティーが日常的に学校の中でできたらいいなと思います。夢かもしれませんが、そのような所があれば、何か学校の敷居が高いというような話を聞くのですが、日常的にそこに集まれます。公民館には集まっているようで、たまたま東小にはコミセンがあります。そこにはお年寄りが集まった際に、1 年生が 1 クラスずつ歌を歌ったり、少し手遊びをする際におじゃましました。渡り廊下を通るだけですので 100%安全な場所です。そうしたら、大変喜んでいただいて、いつものお年寄りの表情が全然違うと言っただき、これまでその会を運営していた方たちも喜んでいました。やはり子どもの力はすごいと、お互いにいい影響があります。お年寄りたちにとってもいいですし、子ども達にとってもいいと思いますので、このようなことが学校の中でできればと思いました。校舎内が無理でしたら、コミュニティーの場所が学校敷地内のどこかに設けられればということが一つです。

もう一つ小規模校の良さというのは、移動がしやすいことです。1 台のバスに乗りきれます。例えば、東小の子どもが移動しようしますと、バスが 3 台・4 台必要になります。しかし、須山小や富二小の子ども達は、小さなバスに乗り切れ、移動が可能となります。ですから、例えば幼稚園のバスを送り迎えの時間以外の時間帯に無料で貸していただければ、千福小の子どもが富一小に行き、一緒に授業を受けることや交流会を年に何回かやるなど、何か小規模校と大規模校の交流がより出来るようなことになればと思います。

小規模校の良さもたくさんありますので、そういう交流の場を増やしていくようなことは大事かと感じます。

委員長

最初のお話の地域との連携については、現在磐田市で新しく学府というものを進めており、地域の方のいる部屋を学校内に造っていますので、そういうことを取り入れようと思えばできると思います。ただし、その場合本当に地域の人しかそこには入ってこないのかという話がでできますので、先程のように別棟の建物として、そちらは学校とは別に管理してもらい、子ども達がそちらに行くというほうが現実的かと思います。

委員

一昨日市 P 連の理事会があり、今回はグループワークということで、もし PTA 活動が

なくなった場合はどうなるか、その問題点を話し合う場がありました。そのときに、5～6校の小中学校の会長と意見交換し、うちの学校ではこんなことをしているということを書き添えていた際に、資源回収はどここの学校でもやっているのですが、西中は年1回で、明日行いますが、他の学校では、年に3回も行っているような学校もありました。

資源をいつでも持ち込める段ボールや雑誌を置けるようなステーションが西中にはありますが、その付近での防犯の点がどうなっているのかという話が出ました。確かに今まで何も起きなかったのですが、火災の問題もありますし、資源以外のごみが投入される恐れもあります。今まで漠然とただあればいいという感じで、学校に行く機会があればその際に資源ごみを入れていました。正門から入って、すぐのところにそのステーションがあり、このことは地域の皆さんもご存知かと思いましたが意外にご存知ではありませんでした。

委員の皆さんもいくつか意見を出しておりますが、やはり地域の方がもっと入れるような施設が学校内に造ればいいと思います。地域の方と生徒が交流できる場が、建て替えの際でも構いませんので、あったらいいなと思いました。

委員長

学校と公民館のような施設が併設して建っているところもあります。藤枝の小学校では、平日は家庭科室が学校側に繋がっていて外からは入れませんが、週末になると学校側を閉め、外から入れるようにして、そこで地域の方の料理クラブが活動しています。また、図書室は両方から入れるようになっており、市側で司書を配置しています。したがって、学校が司書をわざわざ配置しなくても市の司書が対応しています。ゾーニングが上手くできれば、地域の方との交流もしやすくなると思います。ただし、完全にオープンにしてしまうとどこで何が起こるか分かりません。池田小の事件の教訓もありますので、それらの点を上手く設計に反映して、必ず地域と繋がっている校舎が裾野の学校であるというのも一つアイデアとしてはあると思います。

委員

以前不登校の子どもが学校以外のところに集り、そういう場所があつて良かったという話を聞いたことがあります。今もそういう場所が存在しているのでしょうか。

事務局

不登校の対応としては、ふれあい教室・適応指導教室というものがあります。教室の場所が、何回か移転しましたが、今でも継続しています。

委員

2点あります。1点は、人口減少と地方創生の問題、これは色々と全国的にも言われていますが、これを間接的に考えたときに育った地域に子ども達が帰りたいという帰属意識といいますか、子ども達が、その地域に戻ってきたいという意識を持たせるためには、やはり先程から言っているように、地域のコミュニティーの中の学校なのだということ、そういう意識を学校は持ってもらいたいと思います。そうすると色々な教育効果はあると思います。道徳心であるとか、そういったものが地域の人達の関わりに

よって生まれてきます。私は、学校は複式でない限り残すべきだと思います。学校がありませんと地域はどんどんと衰退してしまうという基本的な考え方はあります。しかし、あまりにも少なくなりますと、これは考えなければいけないということもあります。

もう一つは、弱者に対して手厚い、具体的には算数の苦手な計算ができない子どもがいたり、或いは不登校の子がいたり、食事を提供したりと、要するに教育格差が出てくるものですとか、そういう様々な特別な支援、弱者に対する配慮もある裾野市にしてもらいたいと思います。

委員長 弱者に対して優しい教育ということも当然入ってきていいと思います。先程の校舎建築の話になりますが、特別支援の必要な子ども達のクラスを道路に近い1階に造り、保護者の方が近くまで車で来れるよう、そこには専用の駐車場を設けたり、色々な工夫はできると思います。弱者に優しいという点を入れていくということは、非常に大事であると思います。また、地域との関係でいいますと、今度の学習指導要領のカリキュラムマネジメントが、基本的に社会の中の学校という位置づけで学校の教育を計画していくようになりますので、それは当然実施していく話になると思います。

委員 2・3日前のテレビで、公立学校の定員割れを題材とした放送を見ました。愛媛か香川の事例かと思いましたが、ある学校の取り組みということで、外国人の子どもをたくさん受け入れてコミュニケーションをとることで、その学校の子どもはネイティブのようになり、みんな英語が堪能に話せ、その学校の生徒の半分以上が県外から来ているようで、そういう特色のある学校は、保護者も非常に興味のあるところだと思います。

委員長 先程の特色のある学校の話の具体的な事例、それと国際教育と関連しての事例ということでした。他にもICTなど何か特徴が出せればいい方向だと思います。そういう意味で、例えばICTや情報教育でしたらこんなことをやってほしいということがありましたらお願いします。

委員 児童生徒数の減少が課題となっていますが、私は須山地区の出身ですから、1クラス18人・19人と児童生徒が減少していることは分かりますが、ではどうしたら増えるのか、またこの人数は、危機感からするとどの程度なのか、私としては今歯止めを掛けなければ、近々には一桁になるのではないかと感じています。

また、地域のこともありますが、教育だけのことではなく、市のまちづくりをしっかりと創っていただいて、家を建てたいとしたときに他市町へ出てしまう方もいるようですので、まずは市内に家をしっかりと造ってもらい、家を造ることによって、色々な施設もできますし、そうすると住みやすい環境ができてきます。今度、富岡地区に150戸くらいの分譲があるそうですが、そうなりますと富岡地区では、人口が増えると思いま

す。そうしたときに、また建物の話になってしまいますが、子どもが増えたから校舎を造ろうかという話になるかと思います。そうすると、他の市もあるのですが、一時一気に子どもが増えますが、20年位経つと減少してしまうことがあります。教育だけでなく、人を増やすことは非常に難しいことで、ですから課題にもなっており、現在ほどのレベルの危機感にあると認識しておけば良いのでしょうか。

須山地区は、非常にコミュニティーのある地域です。老人会から幼稚園までの地区の大運動会、地区をあげた運動会が今も行われています。恐らくこの地域だけだと思いますが、そういうことがまだ行われており、すごくいいことであると思います。しかし、本当に危機感を持っているのは自分だけではなく、近隣の方々や区長会からも人数が少ないと言いますし、我々世代の子どももそうですが、学校を卒業してから、なかなか地元に戻ってきません。そういうこともあり地域には工業団地もありますので、少しでも雇用のあるような所をつくっていただきたいという話もあります。そういう観点から皆さんはどう考えているのかと思いました。

委員 今のご意見に対して、須山地区には幼稚園と小学校が近接してあります。それらをどのようにしていくのかという検討を、市の考えもあるかもしれませんが、市に相談しなければできないこともあるかもしれませんが、自分たちの地域で検討委員会等を開いて、色々考え、アイデアを出して、これだったら何とかやっていける、或いは特区にすることで人が増えていくかもしれない、そういうようなことは各地域でやっていかないと、市でなければできないこともあるかもしれませんが、やはり地域でそのあたりは考えていくべきだと思います。

委員長 おっしゃることはそれぞれ分かります。ここでは、そこをどうしてもいじるわけにはいきませんので、あくまでも現状こうなっているということを受けての話をせざるを得ません。

思い出しましたが、以前須山中に3年間校外研修で通わせてもらいました。クラスの数も少なく、先生の数も少ないので、自分の免許外の授業を教えている先生もいらっしゃいました。その中にいるとあまり気付かませんが、別に全部の教科を先生に教えてもらっているのも普通かと思えますが、実際には免許外の先生が、教えられていることもあります。みんなそれぞれ自分の学校のことしか分かりませんので、自分のところは上手くいっていると思っているところはあります。そういう点で、先生の数が少ないことに関して気が付いていないデメリットも、どこかにはあるということは今思い出しました。

例えば、小中でプログラミング教育をやることになっていますが、地域によっては、かなり早めに取り組んでいるところもあります。裾野市はどうでしょうか。

教育長 遅れています。

委員長           それも他がどうなっているかが分かりませんので、遅れているかが分かりません。

教育長           大きな課題であると思っています。

委 員           裾野ビズというものに参加した際、職員の方に裾野市は、専業主婦の割合が県内で一番多いと聞かされました。コミュニティーとの協力といいますと、お年寄りが絵手紙を教えてくれたりと、どうしてもお年寄りが多くなってしまおうと思いますが、少し子どもが出かけている間に学校に来てボランティアとして教えてくれるような女性が他にも大勢いるような気がします。もう少し若い人を巻き込んでもいいのかと思います。

委員長           個々の学校では、そういうことを考えてらっしゃるのですか。

委 員           富一小では絵手紙を全部展示しています。展示が終わりますと絵手紙教室を開催し、それには子ども達も参加しますので、興味のある方たちが教えています。

委 員           協力的な保護者の方は何人もいて、東小はベルマークをやっていますが、事業部にボランティアで協力してくださったり、或いは読み聞かせとか、色々な保護者の方々に協力していただいています。その中に入っていない方たちもいる可能性があるということですね。

委 員           習字や書初めを教えてくれるボランティアのことを聞きます。学校で取りまとめてくださっているようですが、もっと手伝える方はいるのではないかと思います。

委員長           今のお話は、裾野市の専業主婦の割合が県内では多いということなので、それを少し生かせないかという話です。そういった裾野の特色みたいなものは他に何かありますか。

委 員           今三島市は花と水、緑をすごくアピールされています。裾野にも、そういった主婦の方がいたら、まちづくりの観点もありますが、学校も含めてやはり花がありますと、子ども達が登下校時に楽しめますし、何か元気をもらえるような気がします。そういう花植え等の作業について学校の園芸委員会だけでは手の回らないところを、そういう方たちにお手伝いいただければと思います。そして、そういう動きが花いっぱい裾野市にしよう、駅前やメインストリートの花いっぱいしよう、それがまちづくりの一環として、学校も含めて公共施設にそうやって花を植えて手入れしたりと、そういう繋がりががあると子ども達もできるときには一緒にやったりと、そんなことがあるといいなと思います。



委員長 地域の学校でといったときに、そうすると学校でも地域に子どもと一緒に出ていかなければならないことがあるかと思います。それは、これからやっていくという形にはなると思いますが、その体制に関しては大丈夫なのでしょうか。

委員 学校の子ども達に色々なことを頼まれても、現実それがなかなか動けないこともあります。

委員長 そのへんところは、実際にはやり始めてみてから調整していくことになると思いますが、地域が学校にという話もありますが、学校が地域にという話も少し検討していかなければなりません。

委員 富岡地区ですが、年何回か小学校のグラウンドでコミセン祭り、桜まつり、夏祭り等のお祭りがあります。そこで、私の下の子どもが富岡地区の幼稚園に通っているのですが、今年は、年長さんをステージに招いてくださり、そうすると親は今度子どもが通うことになる学校を見に行きます。そこでは4年生や6年生がボランティアでお花を売っていたり、地域の方が抽選会をやっていたりと、あとはスタンプラリーもありました。そういうことに関わっていくと、ここの小学校に通うことに対して子ども達も楽しみにしていたり、今年は年長さんだけだったのですが、年長さんがでると年中さんも見に来てくれたりして、ここに立ちたいなという声がありました。私の姉は市外に住んでいますが、こんなお祭りはないと言っていました。他にも文化センターでフェスタが行われたりとイベントがたくさんあり、駐車場もそれなりにある地域のお祭りがあり、いいところだなと改めて思いました。

委員長 そういうところに、小学校や中学校の子ども達が出ていくときには、学校の中でも教育課程に組み込んで対応していく形になりますか。

委員 今は東地区のコミュニティー祭りは、11月3日の祝日に行われていて教育課程の中ではありませんが、祝日に出ていく形となります。西地区でも中学生が参加されますよね。

委員 3年生は全員出ていますが、教育課程の中には入っていません。働き方改革の件もありますので、教員との兼ね合いでは難しい面もありますが、学校の現場から言えば、教育という広い範囲でいうとボランティアや色々地域で繋がったりと、とても大事であると思います。先程の話でも出ましたが、例えば免外で授業をやらなければならないような状況を裾野は解消できるとか、その一つとして、中中兼務ですとか小小兼務ということもあるでしょうし、また小中一貫校にすれば、免許があれば中学校で教えに行けたり、中学校の先生が、専科で理科を教えられたり、外国語を教えられたり、音楽を教えられたりと、そういうようなことができれば、専門的で質の高い教育を提

供することができます。学校現場としては、学習保障をしなければいけないというところを一番優先して考えますと、そういうところに予算や人を多くつけることが必要であると思います。

委員長 それはよく分かります。小中一貫に関して、アンケートの中では、こういったメリットがあるということはあまり分かりません。

そろそろ時間が時間となりましたが、今回色々と意見をだして頂きましたが、これをまとめて、次回第4回で今日出た話を踏まえて、もう一回議論をして提言の案を作成して、さらに5回目に議論するという形になると思います。

つきましては、もしよろしければ、周りの方の意見も聞いておいてください。

### (3) 次回委員会の開催日

説明者：教育総務課

次回の委員会は、2月4日（火）午後3時から 市役所4階402会議室にて開催。

### 【意見等】

委員長 そうでしたら、次回の委員会は2月4日の午後3時から市役所4階402会議室でお願いします。

予定されていましたが3つの協議事項につきまして議論を終えましたので、議事を事務局にお返しをします。

### 6. 閉会 教育部長

長時間にわたりありがとうございました。

次回の日程につきましては、2月4日（火）となりましたので、よろしく申し上げます。また、事前に開催通知や資料等の準備が整いしだい送付させていただきます。

以上をもちまして、「第3回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を閉会いたします。

本日は、どうもありがとうございました。

17時00分 会議終了